

安田尚道教授略歴

一九四三（昭和一八）年九月一〇日、東京都日本橋区（現、中央区）生まれ

一九六三年四月、東京大学文科三類入学

一九六七年三月、東京大学文学部国語国文学専修課程卒業

一九七〇年三月、東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修士課程修了

一九七〇年四月、同博士課程進学

一九七二年三月、同博士課程退学（助手就任のため）

一九七二年四月、東京大学文学部助手（国語研究室勤務）

一九七五年四月、青山学院大学文学部専任講師

一九七九年四月、同助教授

一九八八年四月、同教授

一九九八年四月、文学部日本文学科主任（二年間）

一九九八年四月、大学院文学研究科日本文学・日本語専攻主任（二年間）

二〇一二年三月、定年により退職

安田尚道教授著作目録

一九七一年

一二月「イザナキ・イザナミの神話とアワの農耕儀礼」（日本民族学会《民族學研究》第36巻第3号、p.204～221）

一九七二年

二月三月「日数詞（上）（下）」（東京大学国語国文学会《國語と國文學》第49巻第2号、p.52～60、第3号、p.54～65）

三月「（発表要旨）朝鮮語と日本語の母音調和と両国語の母音の対応について」（国語学会《國語學》第88集、p.117～118）

一二月「〔書評〕森山隆著『上代国語音韻の研究』（《國語學》第91集、p.78～82）

一九七三年

三月「（発表要旨）海幸・山幸の神話と『旧約聖書』のイサクの物語」（日本民族学会《民族學研究》37巻4号、p.386）

一九七四年

二月「和数詞による暦日表現と「ついでたち」の語源」（《國語と國文學》第51巻第2号、p.45～60）

四月「昭和四十八年度国語国文学界の展望 国語学（古代語）」（全国大学国語国文学会《文学・語学》第71号、p.87～93）

一九七五年

七月「日本における日数表現の成立について」（大和書房《東

アジアの古代文化 別冊75 (特集 古代日本と東南アジア)、p.76~83) ☆標題は「日本における日付表現の成立について」とすべきであった。

一九七六年

二月「日本語の系統」〔阪倉篤義 (編)『国語学概説』、有精堂出版、p.173~181〕

三月「教詞「ぐ」の意味と語源」〔青山学院大学日本文学会『青山語文』第6号、p.175~192〕

四月「土左日記」〔国語学会『国語史資料集—図録と解説—』、武蔵野書院、No.20〕

一九七七年

一〇月「イザナキ・イザナミの神話とアワの農耕儀礼」〔伊藤清司・大林太良 (編)『日本神話研究 2 (国生み神話・高天原神話)』、p.71~99、学生社〕 ☆安田 (1971) を増補したもの。

一二月「け長」 「長さけ」 「朝にけ」 「旅のけ」 等のケについて」〔松村明教授還暦記念会』〔松村明教授還暦記念会〕『国語学と国語史』、明治書院、p.159~174〕

一九七八年

一月「古代日本語の教詞をめぐる」〔大修館書店『月刊言語』第7巻第1号、p.75~82〕

一九八〇年

三月「古文獻に引用された『三宝絵詞』(一)」〔青山語文』第10号、p.14~29〕

三月「『三宝絵詞』研究文献目録」〔青山語文』第10号、p.30~42〕

一二月「高山寺藏本『孟蘭盆供加自念』(三宝絵拔書)の研究」〔高山寺典籍文書綜合調査団『高山寺典籍文書の研究』、東京大学出版会、p.693~708〕

一九八一年

三月「『三宝絵詞』東大寺切とその本文(一)」〔青山語文』第11号、p.22~30〕

五月「東北地方の裸回り」〔東北民俗の会『東北民俗』第15輯、p.10~17〕

一九八二年

三月「『三宝絵詞』東大寺切とその本文(二)」〔青山語文』第12号、p.13~16〕

一〇月「『三宝絵』〔至文堂『国文学解釈と鑑賞』第47巻11号(10月号、特集=絵解き)、p.122~125〕

一二月「上代語の母音はくつあったか」〔学燈社『国文学解釈と教材の研究』第27巻第16号(12月号)、p.68~72〕

一二月「韓国語・日本語同系論と母音調和」〔韓国文化院(監修)『月刊韓國文化』第4巻12号、p.10~13、自由社〕

一九八三年

三月「上代日本の金石文等に見える「〇月中」の源流について」〔青山語文』第13号、p.1~30〕

一九八五年

五月「新刊紹介 山口佳紀著『古代日本語文法の成立の研究』」
〔《国文学解釈と鑑賞》第50巻第6号（5月号）、p.175〕

九月「『三宝絵の絵と絵解き』」〔一冊の講座 絵解き〕、有精堂出版、p.147～155〕

一九八六年

三月「10および10の倍数を表わす個数詞」〔築島裕博士還暦記念会〕
〔東京大学国語学博士
退官記念《国語学論集》、p.40～66、明治書院〕

三月「『三宝絵詞』東大寺切とその本文 (iii)」〔《青山語文》第16号、p.44～47〕

九月「日本語の数詞の語源」〔日本語語源研究会「語源探求」、p.40～59、明治書院〕

一〇月「唱歌詞」〔松村明教授古稀記念会〕
〔松村明教授
古稀記念《国語学研究集》、p.25～36、明治書院〕

一九八七年

三月「（発表要旨）沖縄の古辞書『混効験集』は果して一七七一年に成立したか」〔《國語学》第148集、p.95〕

三月「万葉集の文法」〔山口明穂（編）『国文法講座』第4巻（時代の文法—古代語、p.40～76、明治書院）〕

一九八八年

三月「昭和六十一年（自12月）国語国文学界の展望（Ⅲ）国語学（古代語）」〔《文学・語学》第116号、p.63～69〕

五月「日本語の歴史2 上代」〔金田一春彦ほか（編）『日本語百科大事典』、p.65～73、大修館書店〕

七月「『三宝絵』の漢字」〔佐藤喜代治（編）『漢字講座』第5巻（古代の漢字とことば）、p.256～281、明治書院〕

一九八九年

五月「（発表要旨）裸回りと江戸城の新参舞」〔日本民俗学会《日本民俗学》第178号、p.157〕

一九九〇年

七月「国語辞典の用例」〔三省堂《三省堂ぶっくれっと》No.87、p.64～67〕

一九九一年

三月「人数詞」〔《国語学》第164集、p.29～42〕

三月「和語数詞による端数表現」〔小林芳規博士退官記念会〕
〔小林芳規博士
退官記念《国語学論集》、p.197～218、汲古書院〕

一月「『枕草子』の「ひひくるるまに」——沖縄などの方言における個数詞「ヒテツ」（1個）をめぐる——」〔《國語と國文學》第69巻第11号、p.87～95〕

一九九三年

三月「日本語数詞研究文献目録」〔《青山語文》第23号、p.100～125〕

一〇月「日数詞ムヨカ（6日）について——『言海』に紛れこんだ東北方言——」〔松村明先生喜寿記念会『国語研究』、p.664～676、明治書院〕

一九九五年

三月「三宝絵詞」東大寺切とその本文(四)「『青山語文』第25号、p.24-28」

一〇月「人数を意味しないヒトリ」〔築島裕博士古稀記念会「築島裕博士国語学論集」、p.60-78、汲古書院〕

一九九六年

三月「日本語数詞研究文献目録(2)」〔『青山語文』第26号、p.223-238〕

六月「一〇〇〇およびその倍数を表わす個数詞」〔山口明穂教授還暦記念会「山口明穂教授国語学論集」、p.85-107、明治書院〕

一九九七年

九月「三宝絵」の東大寺切を求めて——国文学の資料としての古美術品入札目録——〔岩波書店《新日本古典文学大系月報》80(第31卷付録)、p.1-3〕

一九九八年

二月「ヒトリ(一日)とフタヒ(2日)」〔『東京大学国語研究会「国語研究」』、p.493-508、汲古書院〕

一九九九年

三月「ミンモジアマリヒトモジからミンヒトモジへ」〔『青山語文』第29号、p.180-192〕

二〇〇〇年

八月「中世語資料としての『文机談』」〔小学館《本の窓》第23巻第7号(8月号)、p.31〕

二〇〇一年

三月「シ(四)からエンへ——4を表わす言い方の変遷——」〔『青山語文』第32号、p.124-138〕

四月「石塚龍麿と橋本進吉——上代特殊仮名遣の研究史を再検討する——」〔『国語学』第213集、p.1-14〕

二〇〇四年

三月「橋本進吉は何を発見しよう呼んだのか——上代特殊仮名遣の研究史を再検討する——」〔『國語と國文學』第81巻第3号、p.1-15〕

三月「シチ(七)からナナへ——漢語数詞系列におけるナナの成立——」〔『青山語文』第34号、p.130-141〕

二〇〇五年

五月「古代日本の漢字文の源流——稲荷山鉄剣の「七月中」をめぐって——」〔青山学院大学文学部日本文学科「文字とことば——古代東アジアの文化交流——」、青山学院大学文学部日本文学科、p.107-123〕

一〇月「上代特殊仮名遣の二類の研究史」〔築島裕博士傘寿記念会「築島裕博士国語学論集」、p.596-615、汲古書院〕

二〇〇六年

五月「国語辞典における百科語の諸問題」〔倉島節尚(編)『日本辞書学の構築』、p.502-491、おうぶい〕

二〇〇七年

一月「(書評)三保忠夫「木簡と正倉院文書における助数詞の研究」」〔日本語学会《日本語の研究》第3巻第1号、p.93-〕

— v —

367]

一月「神」と「上(かみ)」は同源だとする説をめぐって」〔《青山学院大学文学部紀要》第48号、p.1~26〕

三月「有坂秀世」上代に於ける特殊な假名づかひと橋守部「稜威道別」〔訓点語学会《訓点語と訓点資料》第118輯、p.1~13〕

四月「橋本進吉(述)」古代国語の音韻に就いて」〔明治書院《日本語学》第26巻第5号(四月臨時増刊号「日本語学の読書案内——名著を読む——)」、p.38~41〕

二〇〇八年

三月「「まぜんかった」は横浜言葉か?——「まぜんかった」の昔と今——」〔国語語彙史研究会『国語語彙史の研究』第27輯、p.280~283、和泉書院〕

一〇月「古事記伝」の「仮字の事」をどう読むか——上代特殊仮名遣の研究史を再検討する——」〔《日本語の研究》第4巻第4号、p.1~15〕

二〇〇九年

三月「古事記伝」の「仮字の事」に引かれた「古事記」の用例」〔《青山語文》第39号、p.1~11〕

六月「古典語の数詞と助数詞」〔《日本語学》第28巻第7号(特集 助数詞・類別詞について考える)、p.4~11〕

二〇一〇年

三月「ク語法and説」とその提唱者たち」〔《青山学院大学文学部紀要》第51号、p.143~158〕

三月「エン(四)とナナ(七)」〔《青山語文》第40号、p.1~14〕

二〇一一年

三月「橋本進吉の未定稿「上世の假名遣に關する研究序論」について」〔《青山語文》第41号、p.115~129〕

三月「日本語数詞の倍数法について」〔坂詰力治(編)『言語変化の分析と理論』、p.334~348、おうふう〕

七月「日本語史はどのように可能か」〔《文学・語学》第200号(200号記念特集)いま、日本文学史、日本語史はどのように可能か)、p.92~102〕

一〇月「万葉仮名の二類の区別はどう理解されたのか——音の区別に基づく」という考えの提起と撤回——」〔釘貫亨・宮地朝子(編)『ことばに向かう日本の学知』(名古屋大学グローバルCOEプログラム)、p.25~28、ひつじ書房〕

二〇一二年

二月「上代特殊仮名遣研究における未解決の問題」〔《國語と國文學》第89巻第2号〕

二月「小正月行事としての裸回り」〔《青山学院大学文学部紀要》第51号、p.151~175〕

二月「小正月の粥の国土生成の唱え言と記紀の創世神話」〔日本民俗学会《日本民俗学》第269号(予定)〕

三月「数詞研究四〇年」〔《青山語文》第42号〕